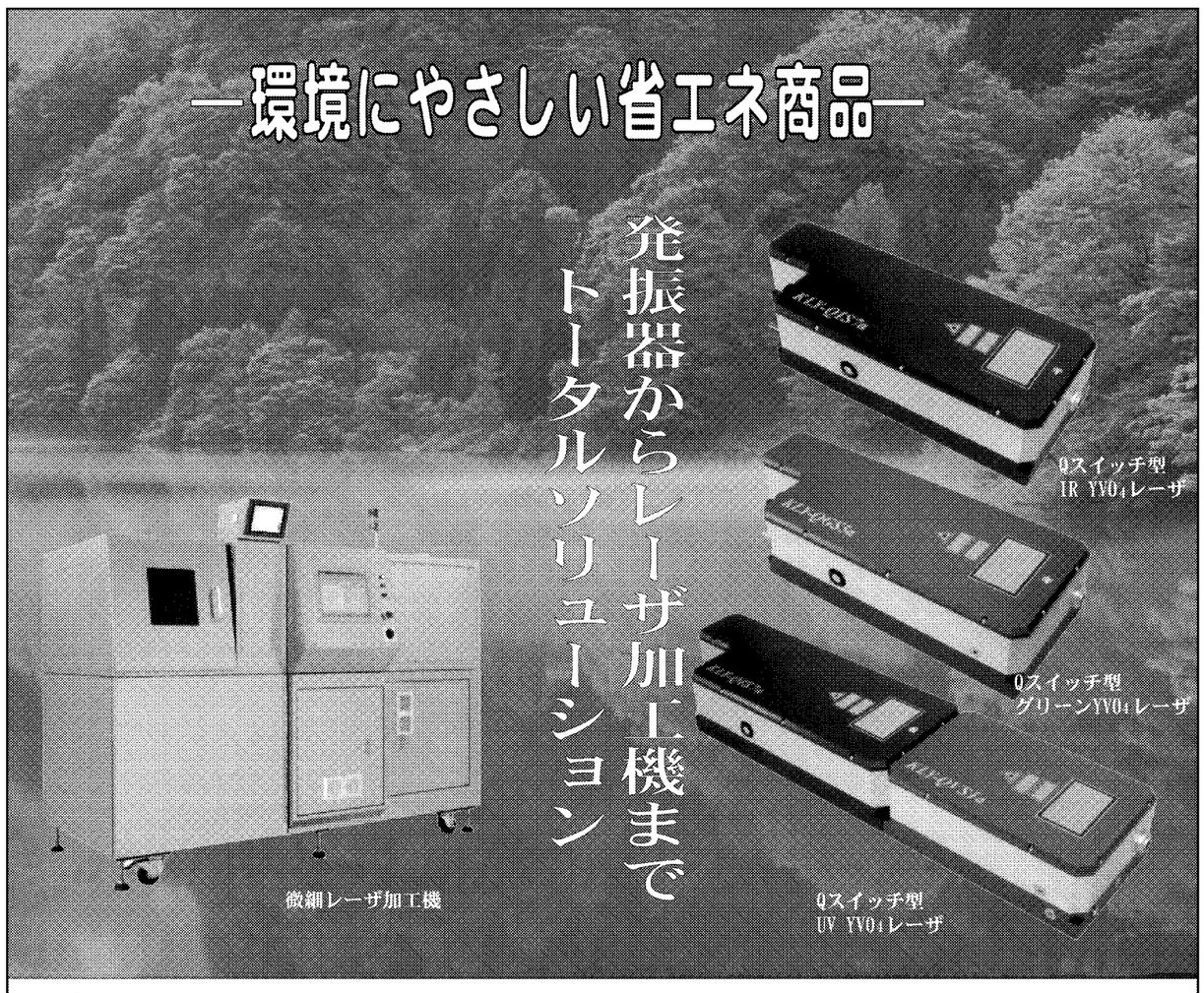


レーザテクノロジーで躍進する
株式会社 片岡製作所
KATAOKA KYOTO JAPAN
本　社／〒601-8203　京都市南区久世築山町140　TEL:(075)933-1101(代) FAX:(075)931-1608
東京支店／〒104-0031　東京都中央区京橋1-14-9依田忠ビル6階　TEL:(03)5524-3411(代) FAX:(03)3563-9710
先端レーザ研究所／〒222-0033　横浜市港北区新横浜2-14-27　TEL:(045)477-3290(代) FAX:(045)477-3299
ホームページ　http://www.kataoka-ss.co.jp

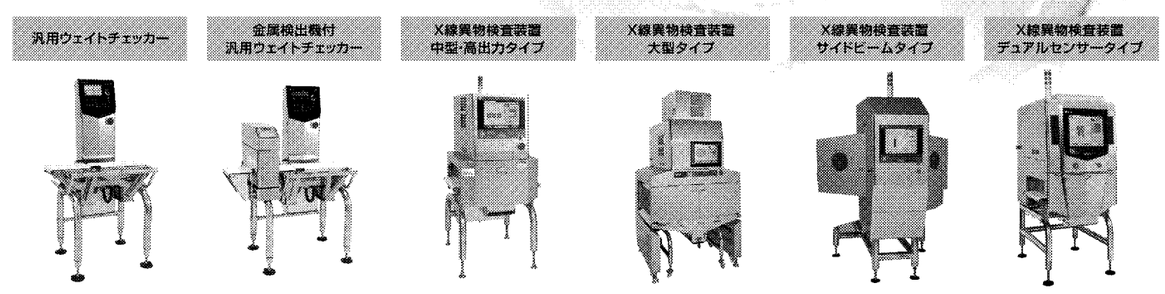
ISHIDA

当たり前の安心を守りたい。

インライン検査機器群

異物混入や不良品を確実に見抜く、イシダの技術。

食品などへの異物混入の防止は、優先されるべき課題。
安全・安心をお届けするイシダでは、
「質量検査」「金属検査」「X線異物検出」の各分野で
高精度な検査機器を豊富にラインナップ。
様々な製造現場のインライン検査をリードいたします。



株式会社イシダ
URL http://www.ishida.co.jp
本　社／京都市左京区聖護院山王町44番地　TEL.(075)771-4141(代)
滋賀事業所／滋賀県栗東市下鈎959番地1　TEL.(077)551-0190(直)
東京支社／東京都板橋区板橋1丁目52番1号　TEL.(03)3962-4300(直)
大阪支店／大阪府吹田市江の木町26番20号　TEL.(06)6310-9282(代)

今年度前半は京都の企業にも何らかの形で震災の影響は残るだろう。ただ産業界は、復興支援のため過剰な自粛ムードを避け経済の活力を維持する考えで一致している。そこで京都らしい独自性豊かな提案で顧客から支持を得る２社、太陽精機とＮＫＥの経営者に今後のモノづくりにかける考えを聞いた。

変わる市場 見極め 機敏に

メカトロニクス 京都2011

TOP INTERVIEW

太陽精機　堀 英二郎 副社長

欧米向け機種 開発急ぐ

デジタル化の進展に対応

―デジタル印刷へと市場環境が変化してきていますが、展開する製本工程機の動向は。

「デジタル化の進展で、欧米を中心にデジタルのデータを印刷した後すぐに製本、断裁する市場ができつつある。そのため５月下旬にドイツと米国の販売代理店から技術者を招き、製本機や断裁機の新製品についてデザインレビュー（ＤＲ、設計の審査）を実施した。欧州では内側に折り込めるフラップ表紙が多いなど製本でも日本と求められるものが異なる。現地の技術者と意見交換し、欧米向けデジタル対応機種の開発を急ぐ」

―９月にも粉体塗装の新工場棟が稼働します。

「機械の最終品質を決めるのは塗装。気候的に機械がサビやすい新興国市場のほか、国内などでも中長期的に見れば機械は傷んでくる。数年後に機械がしっかり動いていてもサビていたり、見た目が悪かったりすれば信頼性が疑われる。粉体塗装は（有機溶剤の塗装に比べ）塗膜が厚く、塗装の耐久力が高まる。また従来の塗装は前処理工程と塗装工程がオフラインだったが、粉体塗装の場合は前処理から塗装までスムーズに行える。品質や生産効率、そのほか環境対応なども考慮し、導入を決めた」

―経済成長に伴い新興国市場で需要が拡大しています。

「中国での売上高が増加して全体を引っ張っている。当社から社員が独立して４月に香港で営業を始めた特約店も順調にスタートしており、現地ニーズを吸い上げている最中だ。それをうまく製品開発につなげたい。中国では特約店が販売代理店を指導してメンテナンス体制も整える。３年後には米国向けと同等の売上高10億円（現状は３億円）規模を目指す」

―今後、力を入れていく分野は。

「これまで食い込めていなかった大手印刷会社が顧客となる菊全判（９３９ミリ×６３６ミリメートル）に対応した機械を軌道に乗せたい。菊全判向けで課題だった耐久性や折り精度を克服した書籍製本用紙折り機を発売し、今年から展示会にも出展を始めた。大手印刷会社に製本の内製化や自動化、デジタル対応などを訴求し、採用につなげたい」

TOP INTERVIEW

ＮＫＥ　中村 道一 社長

販売体制 強化・拡充

エンジニアリングに力

関東と海外で

―設備関連市場での震災による影響は。

「計画停電など切迫した電力事情から、関東エリアを中心に設備投資が盛り上がらない。反して京都以西地域での引き合いは活況。同エリアの当社上期売り上げ計画が、この時点で達成見込みにあるほどだ。業種別に見ると、太陽電池や二次電池など環境・新エネルギー分野での製造設備関連が好調な一方、底堅く推移していた自動車関連の設備投資に動きが戻らない」

―今年度の事業展開で力を入れる点は何ですか。

「関東地域および海外での販売体制を強化・拡充する。２０１０年７月、東京都内にあった関東営業所を埼玉県に移転。新たに設計技師を配置するなど近隣エリアの営業所とともに構成スタッフを再編した。営業展開だけの拠点機能に、設計や図面作成まで現地で完結できるエンジニアリング力を付加した。生産性を向上させる自動化機器やシステム提案で手応えを感じている。今後は関東エリアにおける売上高シェアを、現在の30％から50％へ引き上げるとともに京都同様の技術開発拠点として製品の現地調達体制も検討する」

―グローバル展開も視野に入ってきました。

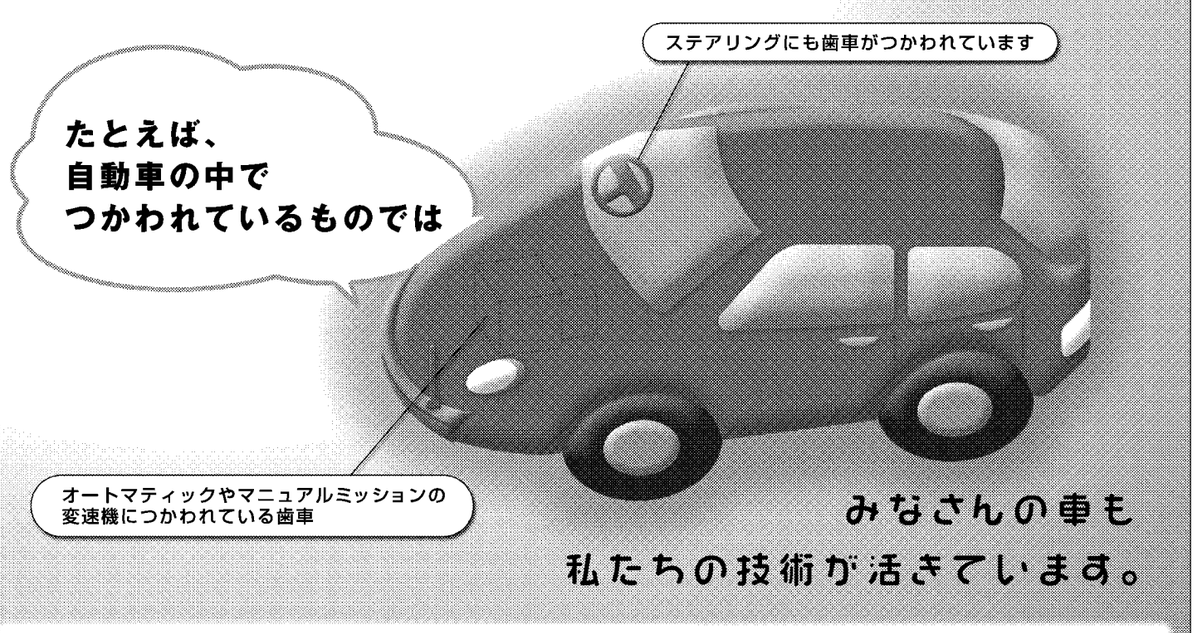
「国内顧客が進める海外事業展開に合わせ、当社が対応すべき海外ビジネスプランを固めつつある。今年度中には中国国内で拠点開設を計画しており、顧客のニーズ把握と同地で対応可能な手法の検討を進めている。現地の日系ユーザーに対し、当社のエンジニアリング力を提供することでアジア圏へ広がる内需獲得を目指す」

―製品展開の方針を聞かせて下さい。

「実需の傾向を見極め標準化が可能な部分を判断し製品化を進める。搬送や部品供給をメーンに現場での使いやすさを重視したコンベヤーシステムなどの提案を検討中だ。ポイントは標準的な一般機能をベースに、当社の知恵を加味することで一品仕様品のような特色を出すこと。顧客それぞれにとって重要な機能を付加した〝お得感〟の提供だ。効率化を果たしながらもカタログにない独自性と気配りを感じさせる製品を打ち出し、他社との差別化を図る」

「一方、オリジナリティーを発揮できる提案型商品の開発にも力を注ぐ。今年度から実需製品開発の部隊とは別に、新商品開発に特化した組織を構築した。効率化を目指した分散制御機器や省エネユニットなど、将来当社の代表的製品として事業の柱となり得る製品の開発を進めていく」

みなさんのお役にたっている
Mother Machineメーカーです。



みなさんの車も
私たちの技術が活きています。

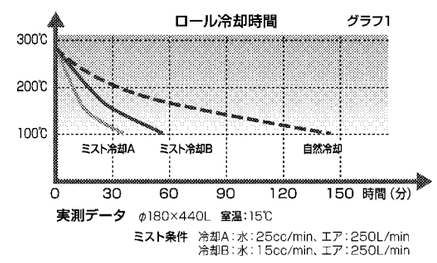
環境と人への優しさ
株式会社カシフジ
本社・工場　〒601-8131　京都市南区上鳥羽鴨田28
TEL(075)691-9171(代)
営業部　TEL(075)661-5271(代) FAX(075)661-5270
東京営業所　〒105-0013　東京都港区浜松町2丁目1番16号　SVAX(スバックス)浜松町-Ⅱビルディング3階
TEL(03)3436-6670(代) FAX(03)3436-0285
■URL:http://www.kashifuji.co.jp　■E-mail:salesdiv@kashifuji.co.jp

冷却機能付 誘導発熱ジャケットロール
ハイブリッドロール®

誘導発熱ジャケットロールに自己冷却のためのミスト発生装置を搭載。加熱性能はそのままに、温度下降時間が従来の3分の1（グラフ1）になりました。
また、外部からの入熱に対しても高精度にロール表面温度を維持。微妙な加熱冷却運転が求められる成膜加工などで、製品の品質向上に貢献します。

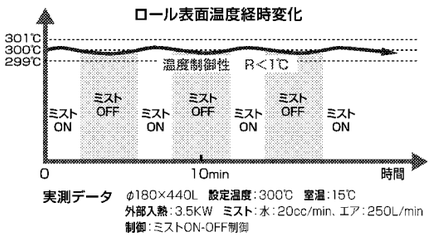
コストパフォーマンスに優れた
ミスト冷却機能

多品種小ロット生産に応える、
速やかな温度変化。



ミスト冷却によって、これまでのジャケットロールでは困難だった速やかな温度下降を実現。
タイムロスを減らし、稼働率をアップすることで多品種小ロットの生産がより効率的におこなえます。

成膜加工など、負荷による入熱があっても
ロール表面温度を維持。



ジャケットロール独自の均温効果に加え、ミスト冷却でより高精度にロール表面温度を維持。
ロールよりも高温のウェブが接触する場合でも、外部入熱分をミストで冷却しながら、誘導コイルによる加熱で設定温度を高精度に維持します。

トクデン株式会社
http://www.tokuden.com
本社・工場　〒607-8345　京都市山科区西野離宮町40番地(山科郵便局私書箱6号)　TEL:(075)581-2111(代)　FAX:(075)592-1944
京都営業課　〒607-8345　京都市山科区西野離宮町40番地(山科郵便局私書箱6号)　TEL:(075)581-5691　FAX:(075)581-1596
東京営業所　〒101-0041　東京都千代田区神田須田町1丁目26(芝信神田ビル5F)　TEL:(03)3252-7251(代)　FAX:(03)3258-0347
マキノ工場　〒520-1834　滋賀県高島市マキノ町寺久保87　TEL:(0740)27-2111(代)　FAX:(0740)27-1839